

だいじなことをわすれずに

いつでも

いっぱい

ちようせんしよう



学校だより

くすのき

合志市立西合志第一小学校

校長 村田典子

風を切って走る“持久走大会”…ご声援を力に頑張りました

11月30日(金)、見事な青空の下、初冬の一大イベント“持久走大会”を開催しました。

低・中・高の部に分かれてのスタート、距離は、低学年:950m 中学年:1480m 高学年:1900mと、発達段階に応じた設定です。

まずは、1・2年生のスタート。低学年は、ロケットスタート、勢いがいいのです。(私も一度練習につきあいましたが、走り始めのスピードにへこたれ、後半ばてました…)そして、中・高学年はさすがになれた走りでした。特に高学年の部1位の6年生水田君の走りには、「げ・まじ!」「はやっ!」等々、感動と驚きの声が上がっていました。



【勢いがいい低学年のスタート】

本番までは体育の時間に加え、業間の時間を使って全校一斉の長距離走に取り組んできました。「だいいちっ子 九州一周マラソン」というカードで1周ごとにマスを塗り、自分の練習状況を見える化して、本番に備えてきました。グラウンドのランニングトータル60周で九州1周制覇。マスがいっぱいになって、九州一周を終えた子もいるとか。(私は鹿児島の霧島までしか行けなかったのですが…)また、休日に本番のコースやビューブル等で自主トレした子もいると聞きました。目標に向かうがむしゃらな姿勢、素晴らしいです。



【高学年の部1位の水田君】

持久走大会の目的は、「持久力を高めること・最後まで諦めずに努力する力を付けること」です。どちらも走る場面だけではなく、これからの社会を生き抜くために大事な力。当然この持久走大会だけで身に付くものではありません。「持久力」「諦めずに努力する力」が、子どもたちの中で確かな力になっていくように、この経験を生活の中に生かしていく働きかけをしていきます。

たくさんの応援、本当にありがとうございました。

“根を養えば 樹は自ずから育つ。” (東井義雄)



今の若い人は「耐性がない」という言葉をよく聞きますが、まさに我が子も該当しています。かく言う私も(若くないですが)…これは、生きる根っこをどれほど張っているか、どんなふうに張ってきたかということなのかな…と今さら思うのです。

タイトルで引用した東井義雄さんのこんな言葉もあります。

見られないことにも 耐えられる根っこ
陽の当たらぬことにも 耐えられる根っこ
踏みつけられることにも 耐えられる根っこ

水をあげすぎれば根腐れするし、栄養を与えすぎるとヤワになるし、見えないだけに難しいものです。ですが、子どもたちが社会を生き抜くための根っこを醸成しているのが「今」。

教育は、手をかけるか、任せるか、後方支援に回るか等々、この案配次第だな…と改めて感じているところです。

(参考:「東井義雄一日一言」H19.12.28 致知出版社)

すいすいタイムの風景

毎週木曜日の朝は「すいすいタイム」。プリントを使った基本的内容の学習を行っています。この日は、お二人のまる付け名人、坂口静枝さん、橋本三保子さんが来校され、子どもたちのプリントを見てくださっています。

優しいアドバイスをいただいで、嬉しそうな表情の子どもたちでした。



【〇付けをのぞき込む】